

エネルギー環境教育フォーラムin東海

作成日：平成18年1月7日(土)

平成18年1月7日(土)「エネルギー環境教育フォーラムin東海」が四日市大学で開催されました。「亀山の自然環境を愛する会」からも参加しました。以下当日の内容と学んだことを記しておきます。当日のフォーラムの内容は、開会挨拶を四日市大学の**大倉克己エネルギー環境教育研究会代表**が行い続いて**特別講演を、箕浦秀樹 岐阜大学大学院工学研究科教授の「曲げても割れないカラフル太陽電池“レインボーセル”の開発と環境教育」**続いて**末吉竹次郎 国連環境計画UNEP金融イニシアティブ特別顧問**より「**環境問題と企業の社会的責任**」の講演が午前の部で各々ありました。午後からは、**事例発表として リサイクル人力自転車「環境サークルみえ」、岐阜県内の科学館・研究機関を結んだエネルギー環境学習「サイエンスワールド」**で行われた後、**パネルディスカッションでは、「社会に役立つエネルギー環境教育とは」**をテーマに、各パネリストより報告とコメントが有りました。

- ・コーディネーター：新田義孝氏・・・四日市大学環境情報学部教授
- ・パネリスト
 - ：朝日幸代氏・・・山口大学経済学部助教授
 - ：鹿谷研二氏・・・公文教育研究会教育主幹
 - ：末吉竹次郎・・・国連環境計画UNEP(TBS朝ズバ火曜レギュラー出演)

【 講演，及びパネルディスカッションで学んだこと 】

- (1) 日本のエネルギー源は、化石燃料(石油，ガス，石炭)6割，原子力発電3割，その他1割で自給率は原子力発電を除くと僅か4%で日本は不安定な状況にある。
- (2) 未来型太陽電池レインボーセルの開発・・・岐阜大学箕浦教授&吉田助手
現在商品化されている太陽電池は、素材の主流は半導体のシリコンである。色は黒っぽい好きな所へ好きなように使えないが、レインボーセルはさまざまな色素を使って太陽光エネルギーを電気に変えることができる。70度の低温で製造が可能なことも魅力である。弱点は現在直径4.4mmが限界なことと、商品化にまだコストを安くする等の時間が必要とのこと。
- (3) 「環境問題と企業の社会的責任(CRS)」・・・末吉竹次郎 国連環境計画 特別顧問
Corporate Social Responsibility CSR
企業を経済，社会，環境の3つの視点から，評価，レポートすることが世界の趨勢になった。社会は，経済の上に成り立ち，経済は地球の生態系の上に成り立つ・・・トリプルボトムライン
気候変動リスクが金融業界では，ビジネスリスクになってきた。自然災害による経済的損失増世界の機関投資家や金融業界は上記CSRを評価して企業に投資評価するように180度変化している。環境破壊するような企業には投資をしない
- (4) 世界の中の日本 海外への高い依存度
エネルギー・・・90%超， 食料・・・60%， 企業の利益・・・30%， 外国人株主25%
- (5) 世界の同世代の現実
8億人は栄養失調で12億人が肥満， 2.5億人が児童就労でインドでは1日/12時間/50円， 1.2億人の子供が小学校に行けず，9億人の人が文盲， 日本は高齢化現象で人口減に対し世界(特にアジア諸国)は人口増加が著しい。貧困とエネルギー不足は世界では深刻である。エネルギー・環境教育では、世界，社会の2面を捉えて考えさせることが必要である。
- (6) これからのエネルギー・環境教育で必要なこと
人としての教養(リテラシー)の構築が必要。(自然現象 社会現象 家庭 現在と未来を横断的に) 物事を考えさせる為には，歴史と事実を見つめ，そして伝えることが大切。
- (7) 新エネルギーは，まだまだコストも高く，作る過程のエネルギー消費も多く課題が多い

以上

(記): 平田